

ユーザーズ・マニュアル

_MIDI CONTROL CENTER
FOR MINILAB 3

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun

開発

Antoine Moreau

Michel Davit

Samuel Limier

Timothée Béhéty

Mathieu Nocenti

Pierre-Lin Laneyrie

グラフィック・デザイン

Morgan Perrier

マニュアル

Sven Bornemark (writer)

Jimmy Michon

Minoru Koike

Holger Steinbrink

Stephen Fortner (writer)

Gala Khalife

Charlotte Métais

スペシャルサンクス

Robert Bocquier

Adrien Courdavault

Kevin Molcard

Frédéric Brun

Glen Darcey

Sébastien Rochard

© ARTURIA SA - 2022 - All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについて Arturia は何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ブランド名、ロゴ、企業名はそれぞれ所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.14.0

Revision date: 23 November 2022

Arturia 製品をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、多くの Arturia ハードウェアデバイス用の付属ソフトウェアである **MIDI Control Center** の機能と操作についてご紹介します。ハードウェア自体の詳細につきましては、該当するマニュアルをご覧ください。

はじめに

親愛なるミュージシャンの皆様、

このマニュアルを読まれているということは、あなたは音楽制作をしていて、Arturia 製品の1つをご購入いただいたことを意味します。お買い上げいただきありがとうございます！ 今、あなたの手元にある Arturia デバイスのパワー、柔軟性、そして完璧な **楽しみ方** を熟知されていると思っています。私たちは、あなたの音楽制作のお役にたてると確信しています。

本マニュアルは、当社のハードウェアで動作するように設計されたパワフルなソフトウェアである MIDI Control Center を使用して Arturia 製品を最大限に活用するときに役立ちます。

MIDI Control Center は、ハードウェアのフロントパネル上での操作を別の方法で提供するだけではありません。フロントパネルからはアクセスできないパラメーターにもアクセスすることが可能です。

まだ MIDI Control Center をダウンロードされていない場合はこちらから入手できます：[Arturia Downloads & Manuals](#).



♪: MIDI Control Center の最新バージョンが利用可能になった場合、ポップアップウィンドウが表示されます。その時にアップデートするか、後で行うかを選択できます。

Arturia のハードウェアやソフトウェアに関する情報は、ウェブサイト www.arturia.com をご覧ください。アーティストにとって不可欠で刺激的なツールやソリューションが豊富に揃っています。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. MIDI Control Center でのはじめの一步	2
1.1. インストール作業とインストールされる場所	2
1.2. 接続する	2
1.3. 内蔵マニュアル	3
1.3.1. MIDI Control Center の機能	3
2. テンプレートとデバイスメモリ	4
2.1. Templates – テンプレート	5
2.1.1. テンプレートの操作	5
2.2. Device Memories – デバイスメモリ	6
2.3. ドラッグ & ドロップ	7
2.3.1. テンプレートからデバイスメモリへ	7
2.3.2. デバイスメモリからテンプレートへ	8
2.4. Store To と Recall From	9
3. Editing Templates – テンプレートの編集	10
3.1. MIDI Channels – MIDI チャンネル	11
3.2. Pitch Strip – ピッチストリップ	12
3.3. Modulation Strip – モジュレーションストリップ	13
3.4. Main Encoder knob – メインエンコーダー	14
3.4.1. Main Knob	14
3.4.2. Main Knob + Shift	14
3.4.3. Main Encoder Knob Click	15
3.4.4. Main Knob Click + Shift	16
3.5. Shift ボタン	16
3.6. Knobs	17
3.7. Faders	18
3.8. Pads	18
3.8.1. パッドの表示色	18
3.8.2. Pads – Notes	19
3.8.3. Pads – CC	20
3.8.4. Pads – Mackie	20
3.8.5. Pads – Program Change	21
4. Device Settings – デバイス設定	22
4.1. Device Settings について	22
4.2. Global Parameters	23
4.2.1. Vegas Mode	23
4.2.2. Default Keyboard Channel	23
4.2.3. Backlight	23
4.2.4. Pitchbend On-Off	23
4.2.5. Pitchbend Settings	23
4.2.6. Modwheel On-Off	24
4.2.7. Knob acceleration	24
4.2.8. Low Power	24
4.2.9. User Programs	24
4.3. Velocity Curves	25
4.3.1. Keyboard	25
4.3.2. Pad	27
4.3.3. Pad Aftertouch – パッドのアフタータッチ	27
4.4. Pedals	28
4.4.1. Sustain	28
4.4.2. Footswitch	28
4.4.3. Expression	29
4.4.4. Control	30
4.5. デバイス設定のインポートとエクスポート	30
5. ソフトウェア・ライセンス契約	31

1. MIDI CONTROL CENTER での最初の一步

1.1. インストール作業とインストールされる場所

お使いの OS に合った最新の MIDI Control Center のインストーラーを [Arturia ウェブサイト](#) からダウンロードしましたら、それをダブルクリックするとインストールが始まります。そこから先は、表示される指示に従って作業を進めてください。インストールはトラブルフリーで行えるはずです。

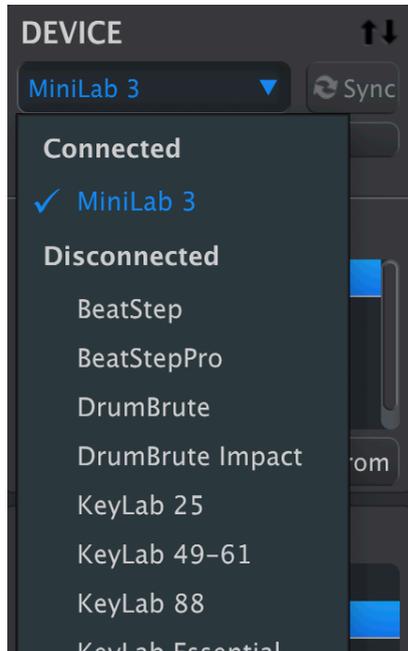
MIDI Control Center は、他の Arturia ソフトウェアと同じ場所にインストールされます。Windows でしたらスタートメニューをクリックしてください。macOS の場合は、アプリケーション > Arturia フォルダにインストールされます。

MiniLab 3 は USB クラスコンプライアントデバイスですので、Mac ユーザーの方は特にドライバーをインストールする必要はありません。Windows ユーザーの方は、MIDI Control Center のインストール時に MIDI ドライバーもインストールされます。

1.2. 接続する

MiniLab 3 をお使いのコンピュータに付属の USB-C → USB-A ケーブルで接続するか、お使いのコンピュータに USB-C ポートがある場合は USB-C → USB-C ケーブルで接続してください。USB ハブを介して接続することもできます。接続すると、ほぼ瞬時に MiniLab 3 が使用できる状態になります。

次に MIDI Control Center を開きます。これで MiniLab 3 が自動的に接続され、接続済みデバイスのリストに MiniLab 3 が表示されます (下図参照)。



1.3. 内蔵マニュアル

Help > Open Manual の順にクリックすると内蔵バージョンの MIDI Control Center マニュアルにアクセスできます。

内蔵マニュアルは MIDI Control Center の概要をチェックするのに便利です。ユーザーインターフェイスの各セクションの概要や、"ワーキングプロジェクト" や "テンプレート" など MIDI Control Center を使用するに際して知っておくべき用語の定義についてもご紹介しています。

MIDI Control Center のマニュアルは、Arturia 製品全般に関する一般的な機能等についてご紹介しています。一方、本マニュアルでは、MiniLab 3 に特化した MIDI Control Center の機能等についてご紹介しています。

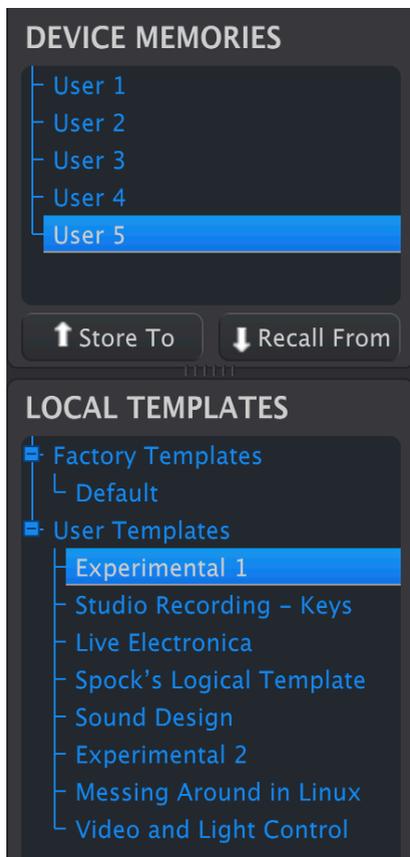
1.3.1. MIDI Control Center の機能

MIDI Control Center に MiniLab 3 を接続すると、次のようなことができます：

- MiniLab 3 の Template (テンプレート) をコンピュータ上で編集し、編集したテンプレートを MiniLab 3 内部のデバイスメモリーにドラッグ&ドロップで入れることができます。
- **Store To** と **Recall From** ボタンで MiniLab 3 との間でテンプレートのデータを送受信できます。
- グローバルパラメーターなど MiniLab 3 のデバイスセッティングを編集できます。
- ファイル管理やテンプレートの作成など、MIDI Control Center のその他の機能を使用できます。

2. テンプレートとデバイスメモリー

MIDI Control Center で MiniLab 3 の作業をする際に、主に使用するメモリーのタイプには、"ローカルテンプレート" と "デバイスメモリー" の2種類があります。



この2つのどちらにも、MiniLab 3 のグラフィカルなディスプレイを見ながらノブやフェーダー、パッド、タッチストリップなどを操作して作成した、コントロール類とソフトウェアのパラメーター等との結びつきを編集した[コントローラーマッピング \[p.10\]](#)の情報が入っています。

では、デバイスメモリーとテンプレートの違いは何なのでしょう？ 簡単に言いますと、デバイスメモリーは MiniLab 3 の中に入るもので、テンプレートは MIDI Control Center の中に入るものです。

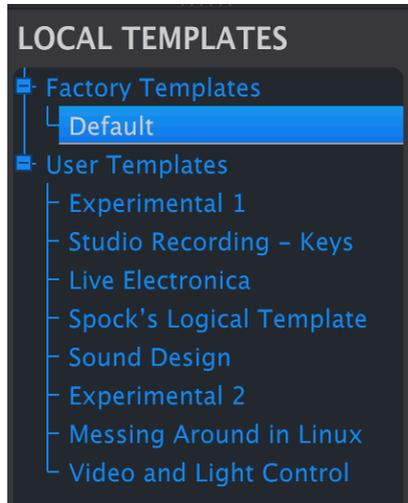
想定ワークフローとしては、ソフトウェア (MIDI Control Center) で好きなだけテンプレートを作成でき、その中から5つをデバイスメモリーとして MiniLab 3 に送り込むというイメージです。

その5つは Device Settings (デバイス設定) 画面の [User Program \[p.24\]](#) (ユーザープログラム) として使用でき、**Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押して選択できます。ですがこのことは話の順番としては先走っていますね。

 ! デバイス設定はグローバルなものですので、1つ1つのテンプレートにはその情報は入っていません。デバイス設定の使い方につきましては、[チャプター4 \[p.22\]](#)でご紹介します。

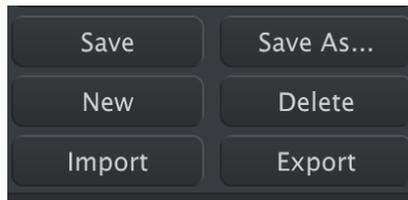
2.1. Templates – テンプレート

MIDI Control Center で作業をしているときは、常にテンプレートを編集していることになります。デバイスメモリーを直接編集しているわけではありません。



テンプレートブラウザ (上図参照) には、MIDI Control Center で使用できるすべてのテンプレートがリスト表示されます。テンプレートは Factory (ファクトリー) と User (ユーザー) という2つのグループに分けられています。

2.1.1. テンプレートの操作



画面左下にある数個のボタンはテンプレートの操作に使用するものです。ここでの操作はすべて、コンピュータ内のローカルテンプレートに対するもので、MiniLab 3 本体にデータを送信しない限り、MiniLab 3 本体内のユーザープログラムが変わってしまうことはありません。

- **Save** : 選択したローカルテンプレートに行った変更を保存します。
- **Save As** : 選択したローカルテンプレートのコピーをユーザーバンクに保存します。
- **New** : 新規テンプレートをユーザーバンクに作成します。
- **Delete** : 選択しているユーザーテンプレートを削除します。
- **Import** : コンピュータからテンプレートファイルを新たなユーザーテンプレートとしてインポート (読み込み) します。
- **Export** : 選択したテンプレートをコンピュータにエクスポート (ファイル書き出し) します。

ファクトリーテンプレートは、削除したり上書きすることはできません。最初に Save As でコピーを作成してください。

New をクリックすると新規テンプレートが作成され、その名前の入力を求められます。名前を入力しましたら、リターンキーで確定します。

他のユーザーとテンプレートをシェアするときは、Import/Export が便利です。テンプレートファイルには "minilab3" の拡張子が付きます。

2.2. Device Memories – デバイスメモリー



デバイスメモリー画面には5つのメモリーロケーションがあります。この5つは、MiniLab 3 本体内のユーザープログラムメモリーに対応しています。各デバイスメモリー/ユーザープログラムには、MiniLab 3 のノブやフェーダー、パッド、タッチストリップのマッピング情報である [コントローラーマッピング](#) [p.10] のセットが入っています。ユーザープログラムは、[デバイス設定](#) [p.22] で個別にオンにすることができます。MiniLab 3 の **Shift** ボタンを押しながら、使用したいプログラム ("User1"、"User2" など) がディスプレイに表示されるまでパッド 3 を押しすとオンになっているプログラムを呼び出すことができます。

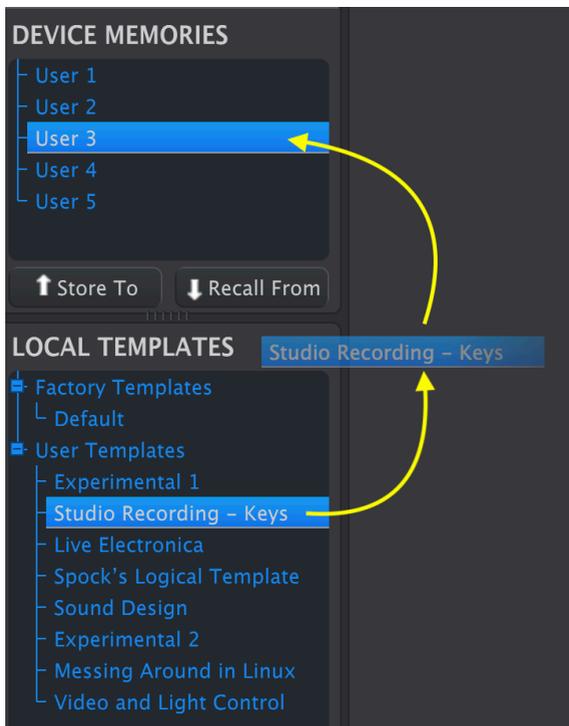
2.3. ドラッグ & ドロップ

テンプレートとデバイスメモリーはドラッグ&ドロップで移すことができます。

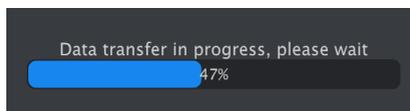
テンプレートをデバイスメモリーにドラッグすると、そのカスタムマッピングを MiniLab 3 で使用できるようになります。

2.3.1. テンプレートからデバイスメモリーへ

テンプレートを MiniLab 3 に入れるには、下図のようにテンプレートをデバイスメモリーの入れたい番号にドラッグします：



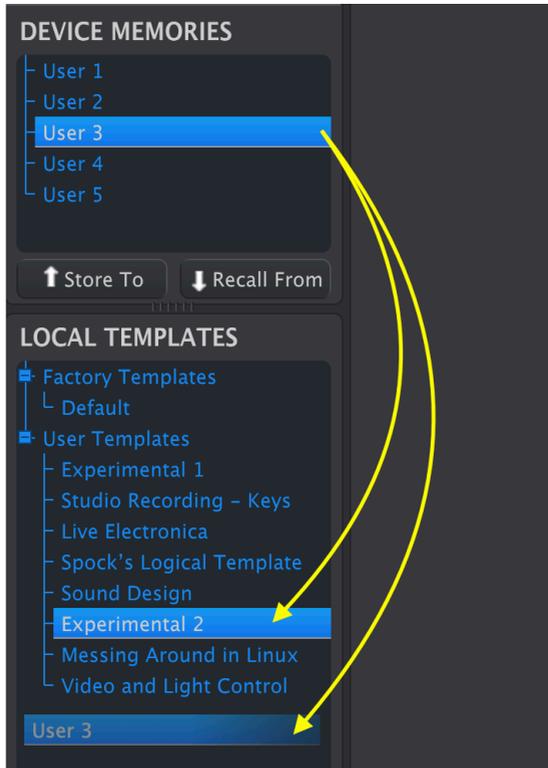
ドラッグすると、MiniLab 3 にデータを移す過程を表示するプログレスバーが表示されます。



! この操作を行うと MiniLab 3 内の該当するメモリーを上書きしますので、操作を行う前に十分にご確認ください。

2.3.2. デバイスメモリーからテンプレートへ

デバイスメモリーからテンプレートにデータを移すこともできます。方法は以下の2通りがあります：

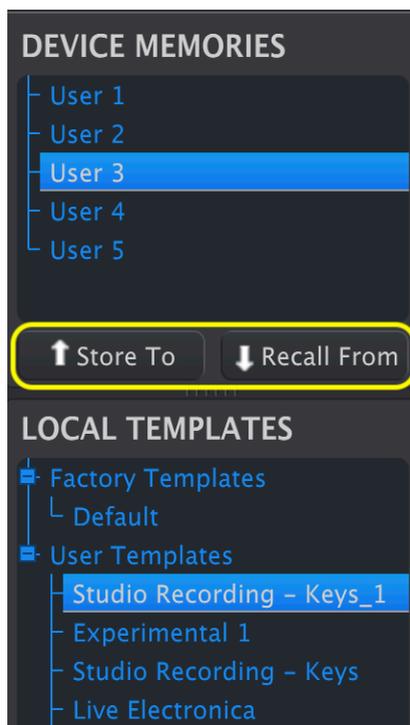


- デバイスメモリーを既存のテンプレート名にドラッグして上書きします。この場合、デバイスメモリーの内容と名前がそのテンプレートに入ります。
- テンプレートのない場所にドラッグすると新規のユーザーテンプレートとしてデータを移します。

上記のどちらの方法でデータを移しても、そのテンプレートを MIDI Control Center で編集できます。

i !テンプレートを編集すると、そのテンプレート名にアスタリスク (*) が付きます。これは、そのテンプレートを残しておきたい場合は Save または Save As で保存する必要があります、ということを表示しています。

2.4. Store To と Recall From

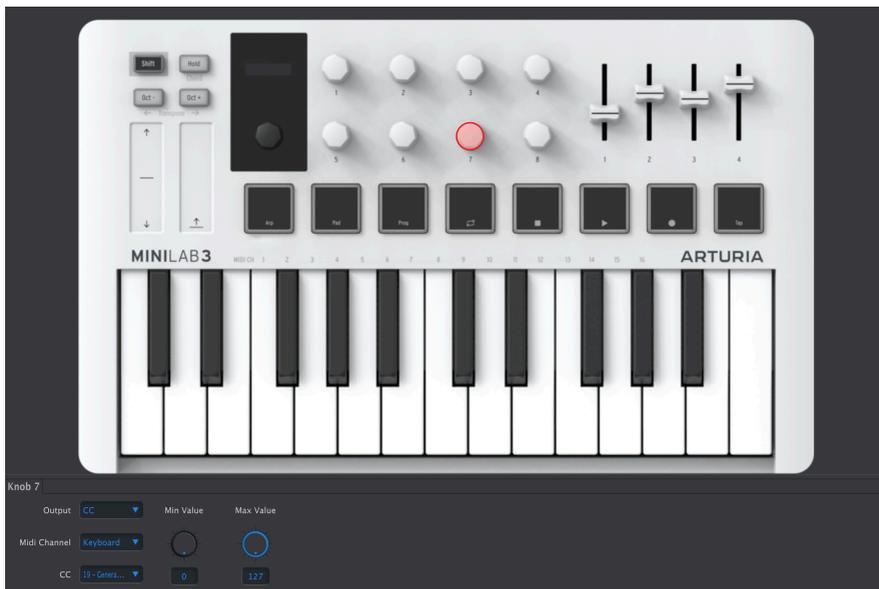


Store To と **Recall From** のボタンは、ドラッグ&ドロップによる操作と同じことをします。

- テンプレートのデータを MiniLab 3 に移すには、テンプレートと行き先のデバイスメモリーの番号を選択して、**Store To** をクリックします。
- デバイスメモリーをユーザーテンプレートとして保存するには、そのデバイスメモリーを選択して **Recall From** をクリックします。

ドラッグ&ドロップによる操作とは異なり、**Recall From** では常に新規ユーザーテンプレートを作成し、そこにデバイスメモリーの内容に移します。既存のテンプレートには上書きしません。

3. EDITING TEMPLATES – テンプレートの編集



さてここからが楽しみです：MIDI Control Centerのメイン画面の **Controller Map** タブでテンプレートの作成方法についてご紹介します。画面に表示された MiniLab 3 のノブやフェーダーなどのコントロール類のいずれかをクリックします。するとそれが赤いハイライト表示になり、パラメーターのグループが画面下部に表示されます。

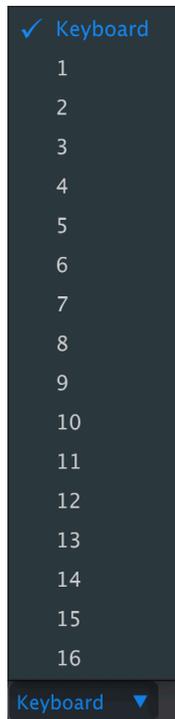
ここで編集するのはあくまで選択しているテンプレートの内容です。またテンプレートの内容を変更すると、テンプレート名の後ろにアスタリスク (*) が表示され、未保存のテンプレートであることを表示します。

MIDI Control Center にパラメーター値を入力する方法は概して3つあります。何かをクリックして動かす、ポップアップメニューから設定値などを選択する、フィールドに数値を入力する、の3つです。



3.1. MIDI Channels – MIDI チャンネル

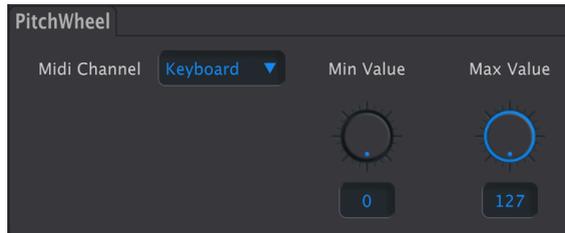
MiniLab 3 の編集可能なコントロール類のどれにも MIDI チャンネルのパラメーターがあります。いずれの場合でも、そのメニューは下図のようなものになっています：



ノブなどのコントロール類から送信するチャンネルを指定することもできますし、MiniLab 3 のキーボードで使用する MIDI チャンネルと同じものを使用する *Keyboard* を選択することもできます。MiniLab 3 のキーボードで使用する MIDI チャンネルは、Device Settings (デバイス設定) の *Default Keyboard Channel* [p.23] (デフォルトキーボードチャンネル) で設定できます。

♪ *Keyboard* の設定値は、コンピュータの画面の前面に表示させたバーチャルインストゥルメントを操作したいときに便利です。別のコントロール類の MIDI チャンネルを *Keyboard* 以外に設定することは、例えば複数の DAW トラックにある複数のソフトシンセのフィルターカットオフなど、複数のインストゥルメントのパラメーターをリアルタイムに操作したいときに便利です。

3.2. Pitch Strip – ピッチストリップ



- **MIDI Channel** : ピッチストリップから送信する **MIDI チャンネル** [p.11] を選択します。
- **Min Value** : ストリップを下にスライドしたときに送信する最低値を設定します。
- **Max Value** : ストリップを上スライドしたときに送信する最高値を設定します。

ストリップのセンター位置 (ピッチバンドがかからない位置) での MIDI の値は 64 です。それ以下の値のときは音程が下がる方向のバンドに適用され、それ以上の値は音程が上がる方向のバンドに適用されます。

Min Value を Max Value よりも大きな値に設定することで、ピッチストリップを操作したときにピッチバンドがかかる方向を逆向き (下げると音程が上がり、上げると音程が下がる) にすることもできます。

3.3. Modulation Strip – モジュレーションストリップ



- **MIDI Channel** : モジュレーションストリップから送信する **MIDI チャンネル [p.11]** を選択します。
- **Output** : モジュレーションストリップから送信するメッセージのタイプを、コンティニユアス・コントローラー (CC) またはノンレジスタード・パラメーターナンバー (NRPN) のどちらかに選択します。

Output を CC に設定した場合、以下のパラメーターを設定できます :

- **CC** : このストリップから送信するコンティニユアス・コントローラーメッセージを選択します (CC 1 はモジュレーションです)。
- **Min Value** : このストリップの最低位置をタッチしたときに送信される値を設定します。
- **Max Value** : このストリップの最高位置をタッチしたときに送信される値を設定します。

NRPN に設定した場合、以下のパラメーターを設定できます :

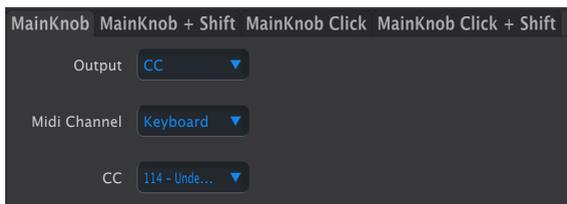
- **Parameter MSB** : NRPN の最上位ビットを設定します。
- **Parameter LSB** : NRPN の最下位ビットを設定します。

i NRPN、MSB、LSB とは？ MIDI のチュートリアルをフルでご紹介するのは紙面の都合上無理ですが、手短かに言いますと、ノンレジスタード・パラメーターというのは、一般的な MIDI 規格に依らないインストゥルメント固有の、またはメイカー固有のコマンドを送信する方法です。MIDI CC とは異なり、NRPN は MSB (最上位ビット) と LSB (最下位ビット) の2つの値を送信します。これにより 127 段階ではなく 16,384 段階の値を使用することができます。

3.4. Main Encoder knob – メインエンコーダー

メインエンコーダーを選択するとその動作を設定するタブがいくつか表示されます。

3.4.1. Main Knob



このタブではメインエンコーダーを回したときの動作を設定します。

- **Output** : CC または Off のいずれかを選択します。
- **MIDI Channel** : メインエンコーダーから送信する [MIDI チャンネル \[p.11\]](#) を選択します。
- **CC** : メインエンコーダーから送信する MIDI CC を選択します。

3.4.2. Main Knob + Shift



このタブでは、**Shift** ボタンを押しながらメインエンコーダーを回したときの動作を設定します。設定項目は Shift ボタンを押していないときと同じですが、それとはまったく別の内容に設定することができます。

3.4.3. Main Encoder Knob Click



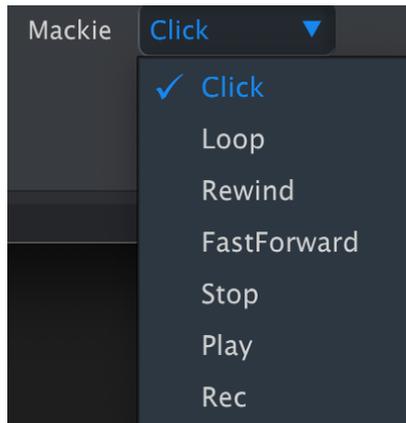
このタブでは、メインエンコーダーをボタンのように押したときの動作を設定します。

- **Output** : Off、CC、Mackie のいずれかを選択します。

CC を選択した場合、さらに以下のパラメーターが設定できます :

- **MIDI Channel** : メインエンコーダーを押したときに送信する **MIDI チャンネル [p.11]** を選択します。
- **CC** : メインエンコーダーを押したときに送信する MIDI CC を選択します。
- **On Value** : メインエンコーダーを押したときに送信する MIDI CC の値を設定します。
- **Off Value** : メインエンコーダーがゲートモードの場合、押していないときの MIDI CC の値を設定します。
- **Type** : メインエンコーダーのボタン機能の動作モード (モーメンタリー/ラッチ) を選択します。
 - *Gate* : 押すと On Value を送信し、押していないときは Off Value を送信します。
 - *Toggle* : オン/オフ切り替えと同様の動作です。

Output を Mackie にセットした場合は、メインエンコーダーを押すと Mackie Control Universal (MCU) プロトコルに沿って DAW のトランスポート機能を実行します。



選択できるトランスポート機能には、Click (メトロノーム) のオン/オフ、Loop (ループモードのオン/オフ)、Rewind (早戻し)、FastForward (早送り)、Stop (停止)、Play (再生)、Rec (録音) があります。



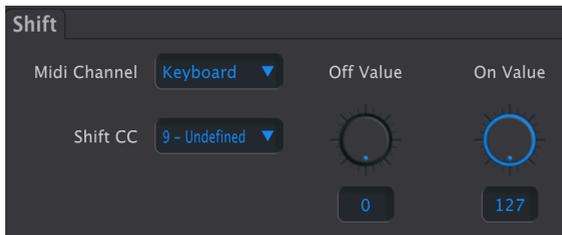
おすすめ設定 : MainKnob Click タブでは Play を、MainKnob Click + Shift タブでは Stop を設定するのが便利でしょう。もちろん他にも色々な設定をお試しください。

3.4.4. Main Knob Click + Shift



Shift ボタンを押しながらメインエンコーダーを押したときの動作を設定し、Shift を押していないときは別の動作にすることができます。設定項目は **Shift ボタンを押さずにメインエンコーダーを押したとき [p.15]**と同じです。

3.5. Shift ボタン

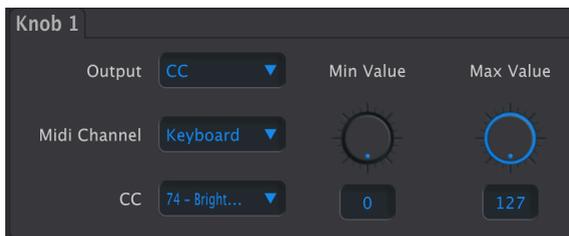


そうなんです、**Shift** ボタンを押したときの動作も設定できるのです！ この動作は Shift ボタンを押している間だけ "on" の値を送信するモーメンタリーなものです。

- **MIDI Channel** : Shift ボタンを押したときに送信する **MIDI チャンネル [p.11]**を選択します。
- **CC** : Shift ボタンを押したときに送信する MIDI CC を選択します。
- **Off Value** : Shift ボタンを放したときに送信する MIDI CC の値を設定します。
- **On Value** : Shift ボタンを押したときに送信する MIDI CC の値を設定します。

Shift ボタンのカスタムマッピングを作成しても、メインエンコーダーなどその他のコントロール類とのデフォルトの動作設定と干渉することはないかと思います。ただし、Shift ボタンのマッピングは、それでコントロールしたいパラメーターの2つの値を単に切り替えるだけで、ノブのように連続可変するわけではないことにご注意ください。

3.6. Knobs



ノブはすべて以下の項目を設定できます。

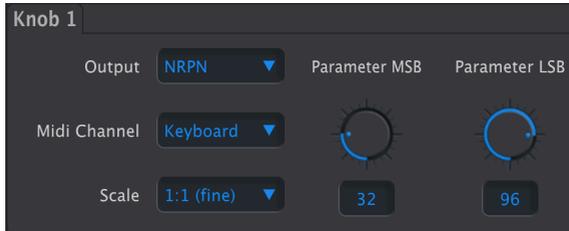
- **MIDI Channel** : ノブから送信する **MIDI チャンネル** [p.11]を選択します。
- **Output** : ノブから送信するメッセージのタイプを、コンティニューアス・コントローラー (CC) またはノンレジスタード・パラメーターナンバー (NRPN) のどちらかに選択します。

Output を CC に設定した場合、以下のパラメーターを設定できます :

- **CC** : このノブから送信するコンティニューアス・コントローラーメッセージを選択します。
- **Min Value** : このノブを最低位置に回したときに送信される値を設定します。
- **Max Value** : このノブを最高位置に回したときに送信される値を設定します。

Min Value を Max Value よりも高い値に設定することで、ノブの回したときの動作 (左に回すと値が下がり、右へ回すと上がる) を反転させることができます。

NRPN に設定した場合、設定できるパラメーターが変わります。

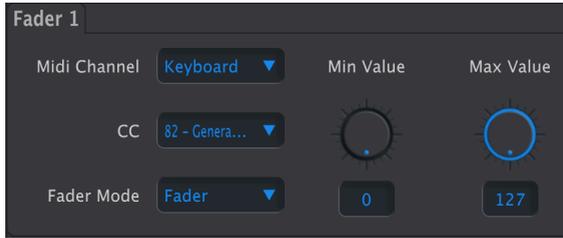


- **Scale** : ノブを回したときに値が変化する大きさ (値が変化するステップの細かさ) を調節します。
- **Parameter MSB** : NRPN の最上位ビットを設定します。
- **Parameter LSB** : NRPN の最下位ビットを設定します。



♪ NRPN の簡単な説明が [モジュレーションストリップ](#) [p.13] のセクションにあります。

3.7. Faders



フェーダーは比較的シンプルで MIDI CC メッセージのみを送信します。

- **MIDI Channel** : フェーダーから送信する **MIDI チャンネル** [p.11]を選択します。
- **CC** : フェーダーから送信する MIDI CC を選択します。
- **Min Value** : フェーダーを最低位置にしたときの MIDI CC の値を設定します。
- **Max Value** : フェーダーを最高位置にしたときの MIDI CC の値を設定します。
- **Fader Mode**:
 - *Fader* : フェーダーを上げると値が上がり、下げると値が下がります。
 - *Drawbar* : フェーダーを下げると値が上がり、上げると値が下がります。

 Drawbar (ドローバー) モードは、Min Value と Max Value を入れ替えたのと同じ状態をワンクリックで設定できるというものです。これにより、フェーダーを Arturia B-3V のようなインストゥルメントのオルガンドローバーのような動作にできます。

3.8. Pads

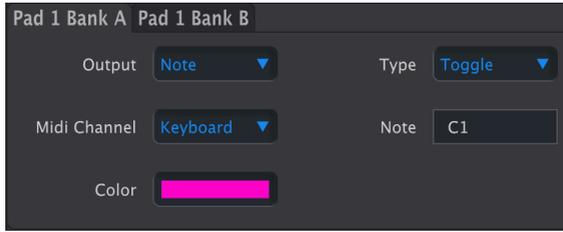
パッドは **Output** の設定で MIDI ノート、MIDI CC 、Mackie Control トランスポートコマンド、または MIDI プログラムチェンジのいずれかを送信します。この送信設定はパッドごとに選択でき、バンク A と B で同じパッドを別々に設定することができます。

3.8.1. パッドの表示色



Color の設定は、パッドの Output 設定が同じものは同じ表示色になります。他のパラメーターと同様、テンプレートをデバイスメモリーに入れると変更後の表示色になります。

3.8.2. Pads — Notes



Output を Note にセットすると、設定した MIDI ノートをパッドから送信します。

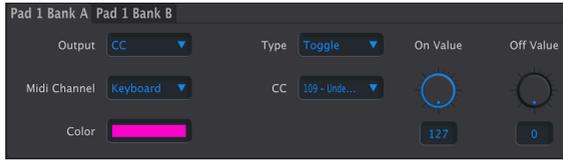
- **MIDI Channel** : パッドから送信する [MIDI チャンネル \[p.11\]](#) を選択します。
- **Type**:
 - *Gate* : パッドを押している間だけ MIDI ノートを送信します。
 - *Toggle* : パッドを押すと MIDI ノートを送信し、もう一度押すまでその MIDI ノートが続きます。
- **Note** : MIDI ノートの音程をポップアップから選択します (下図参照) :

C-2	C#-2	D-2	D#-2	E-2	F-2	F#-2	G-2	G#-2	A-2	A#-2	B-2
C-1	C#-1	D-1	D#-1	E-1	F-1	F#-1	G-1	G#-1	A-1	A#-1	B-1
C0	C#0	D0	D#0	E0	F0	F#0	G0	G#0	A0	A#0	B0
C1	C#1	D1	D#1	E1	F1	F#1	G1	G#1	A1	A#1	B1
C2	C#2	D2	D#2	E2	F2	F#2	G2	G#2	A2	A#2	B2
C3	C#3	D3	D#3	E3	F3	F#3	G3	G#3	A3	A#3	B3
C4	C#4	D4	D#4	E4	F4	F#4	G4	G#4	A4	A#4	B4
C5	C#5	D5	D#5	E5	F5	F#5	G5	G#5	A5	A#5	B5
C6	C#6	D6	D#6	E6	F6	F#6	G6	G#6	A6	A#6	B6
C7	C#7	D7	D#7	E7	F7	F#7	G7	G#7	A7	A#7	B7
C8	C#8	D8	D#8	E8	F8	F#8	G8				

ポップアップの白と黒の背景色は、鍵盤の白鍵と黒鍵を表します。

i ヲパッドは必ずしも連続した MIDI ノートに設定しなくてもいいという決まりはありません。例えば、楽曲で使用するコードのルート音に設定して MIDI チャンネルをベース用の音源に割り当てるといった使い方もできます。これにより、MiniLab 3 のキーボードを2オクターブ分拡張できることになります！

3.8.3. Pads — CC



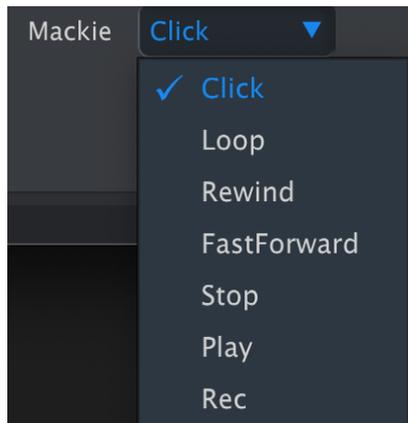
Output を CC にセットすると、パッドからは MIDI CC を固定値で送信できるようになります。

- **MIDI Channel** : パッドから送信する **MIDI チャンネル [p.11]** を選択します。
- **CC** : パッドから送信する MIDI CC を選択します。
- **On Value** : パッドを押したときに送信する MIDI CC の値を設定します。
- **Off Value** : Type が Gate モードの場合はパッドを押していないときに、Toggle モードの場合はパッドをもう一度押したときに送信する MIDI CC の値を設定します。
- **Type** : パッドの動作モードをモーメンタリー (Gate) またはラッチ (Toggle) から選択します。
 - *Gate* : パッドを押している間だけ On Value を送信します。
 - *Toggle* : パッドを一度押すと On Value を送信し、もう一度押すと Off Value を送信します。

3.8.4. Pads — Mackie



Output を Mackie にセットすると、パッドからは Mackie Control トランスポートコマンドを送信します。送信するコマンドは下図の通りです :



3.8.5. Pads — Program Change

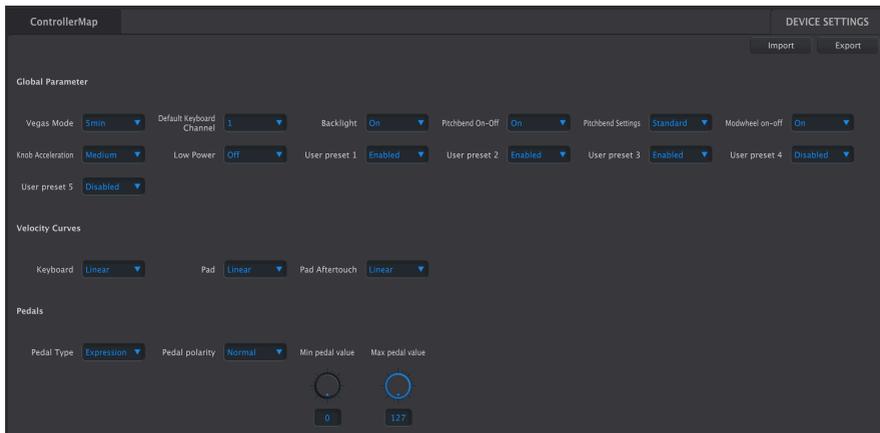


Output を Program Change にセットすると、パッドから MIDI プログラムチェンジを送信します。パッドを押すと、特定のプログラム (番号) を設定した MIDI チャンネルで送信します。

- **MIDI Channel** : パッドから送信する [MIDI チャンネル \[p.11\]](#) を選択します。
- **Program Number** : 1バンク内の最大128プログラムの中から任意の番号を選択します。
- **Bank MSB** : バンク選択の最上位ビットを設定します。
- **Bank LSB** : バンク選択の最下位ビットを設定します。

i Bank MSB と LSB は、MiniLab 3 からプログラムチェンジを送信したいインストゥルメントのバンク選択に使用します。インストゥルメントの各バンクに対応する MSB と LSB の値は、そのインストゥルメントのマニュアル等をご覧になり、それに合わせて設定してください。Program Number、MSB、LSB を設定することで、どのバンクのどのプログラムでもパッド操作一発で呼び出すことができます。

4. DEVICE SETTINGS – デバイス設定



MIDI Control Center の画面右上にある Device Settings タブをクリックすると Device Settings (デバイス設定) のパネルに入り、MiniLab 3 のグローバル設定 (全体的な環境設定) を変更できます。

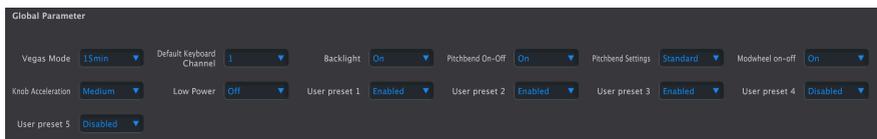
4.1. Device Settings について

Device Settings は、他のソフトウェアでのプリファレンスのようなものだとお考えください。この中には、次のようなテンプレートファイルとの混同を避けるべく注意を要する重要なこともいくつかあります。

- MiniLab 3 では、一度に1つのユーザーメモリー (User1 - User5) のみが使用できます。
- Device Settings の内容は、テンプレートファイルには **保存されません**。Device Settings の内容を変更しても、アスタリスク (*) はそのときに選択しているテンプレート名には表示されませんのでご注意ください。
- MIDI Control Center で設定を変更すると、その場で MiniLab 3 の設定も変更されます。このことは Backlight パラメーターでチェックできます。
- 変更した設定は MiniLab 3 本体内にメモリーされ、その内容は次回変更するまでキープされます。

Device Settings のパラメーターは次の3つのグループに分かれています：Global Parameter (一般的な環境設定)、Velocity Curves (ベロシティカーブ)、Pedals (ペダル端子の動作設定)。

4.2. Global Parameters



4.2.1. Vegas Mode

MiniLab 3 がディスクスタイルのライトショー (スクリーンセーバーのようなものです) が始まるまでの時間を選択します。選択肢は5分、15分、30分、またはヴェガスモードそのもののオフの4つがあります。オフの場合、まったく操作をしない状態が5分続くと MiniLab 3 はスリープモードに入ります。

4.2.2. Default Keyboard Channel

MiniLab 3 のマスター MIDI チャンネルを 1~16 の範囲で設定します。ブルーのチェックマークが付いているチャンネルが現在のチャンネルです。

その他のコントロール類の [MIDI チャンネル \[p.11\]](#)パラメーターで *Keyboard* を選択すると、ここで設定したチャンネルになります。MIDI チャンネルを設定すると、ディスプレイには下図のようなメッセージが短時間表示されます：



この操作は基本的に、**Shift** ボタンを押しながらキーボードで MIDI チャンネルを設定することと同じ操作です。

4.2.3. Backlight

このパラメーターはシンプルで、パッドとボタンのデフォルト状態でのバックライトのオン/オフを選択します。Off にセットした場合でも、パッドとボタンを押したり、**Shift** ボタンを押し続けると点灯します。

4.2.4. Pitchbend On-Off

このパラメーターもシンプルなオン/オフ切り替えで、MiniLab 3 のピッチストリップでのピッチバンドのオン/オフを切り替えます。例えば、ライブなどでピッチバンドを使わない場合、誤って触れてしまっても事故が起きないようにしたいときに便利です。

4.2.5. Pitchbend Settings

ここではピッチストリップの動作モードを設定します。

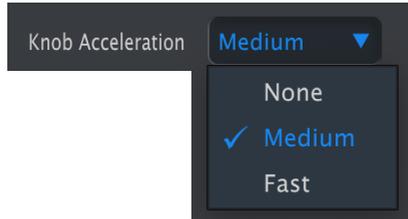
- **Standard**：一般的なスプリング仕様のピッチバンドと同様、ストリップから指を放すとセンター位置に戻る動作です。
- **Hold**：ストリップから指を放してもその位置をキープします (ピッチバンドがかかったままになります)。

4.2.6. Modwheel On-Off

モジュレーションタッチストリップのオン/オフを切り替えます。

4.2.7. Knob acceleration

ノブを回す速さでパラメーターの値が変化するスピードを設定できます。デフォルト設定は *Medium* です。次の3つの設定値から選択できます：

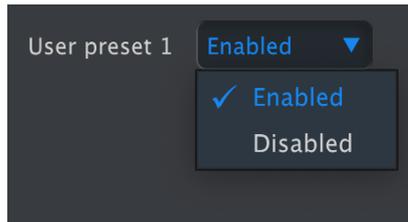


4.2.8. Low Power

このモードをオンにすると、すべてのパッドとボタンのバックライトが暗くなり、その他の内部節電機能が作動します。

このモードは、MiniLab 3 をバッテリーや USB の電源出力が 500mA よりも遥かに低い機器 (Apple iPad など) で使用するとき特に便利です。ローパワーモードをオンにし、バックライトをオフにすることで消費電流を最小限に抑えることができます。

4.2.9. User Programs

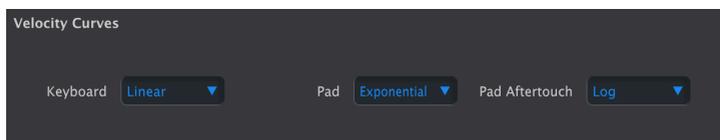


5つのユーザープログラムのメニューはいずれも Enabled (オン) か Disabled (オフ) の2択式です。5つのユーザープリセットは、MiniLab 3 の各コントロール類のマッピングなどの設定を作成した [デバイスメモリー](#) - [p.6] のそれぞれに対応しています。

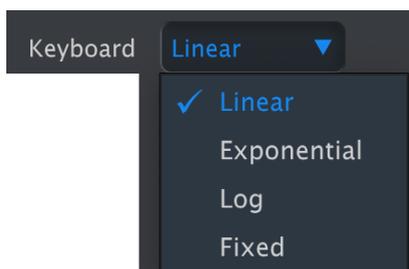
MiniLab 3 の **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 をタップすると、オンになっているユーザープログラム、ARTURIA、DAW プログラムがパッドを押すたびにスクロールします。もちろん、5つのスロットをオンにしていない場合にすべてのスロットをスクロールする必要がないように、各スロットをオフにすることができます。例えば、ユーザープログラムの 1 と 2 のみをオンにしている場合、パッドをタップすると ARTURIA → DAW → USER 1 → USER 2 の順にスクロールし、最初に戻るようになります。ローカルテンプレートをユーザーメモリーに保存すると、そのメモリーが自動的にオンになります。

4.3. Velocity Curves

MiniLab 3 のキーボードとパッドは、演奏するタッチの強さに応じてレスポンスを調整できます。パッドではアフタータッチのレスポンスも調整できます。

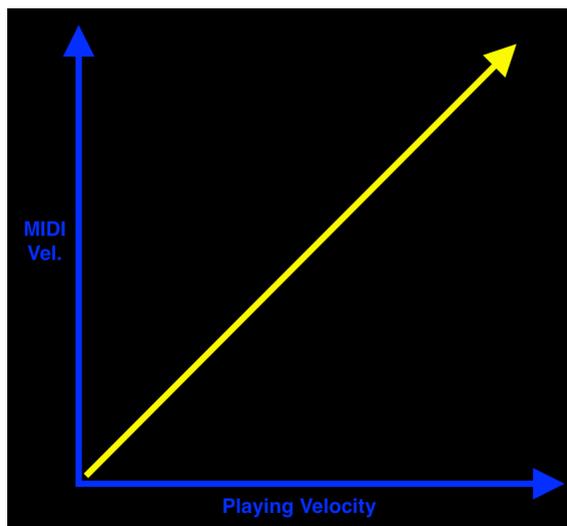


4.3.1. Keyboard



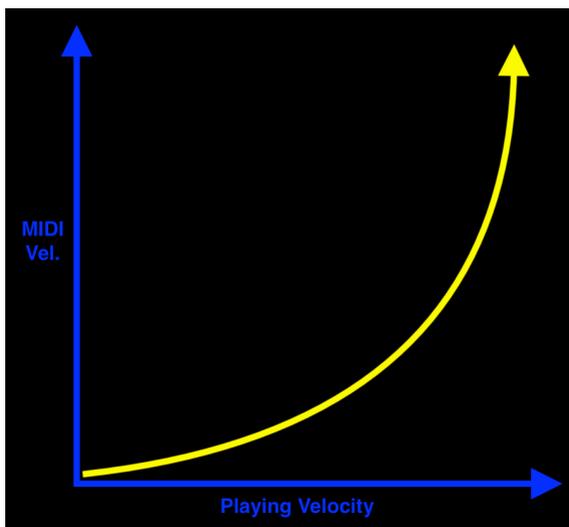
レスポンスのカーブは次の4タイプがあります：Linear、Exponential、Logarithmic、Fixed。

各カーブは、キーボードを演奏するタッチの強弱に応じたベロシティ値の変化が異なります。Linear は下図のようにタッチの強弱とベロシティ値との関係が正比例になるカーブです (直線ですが)：



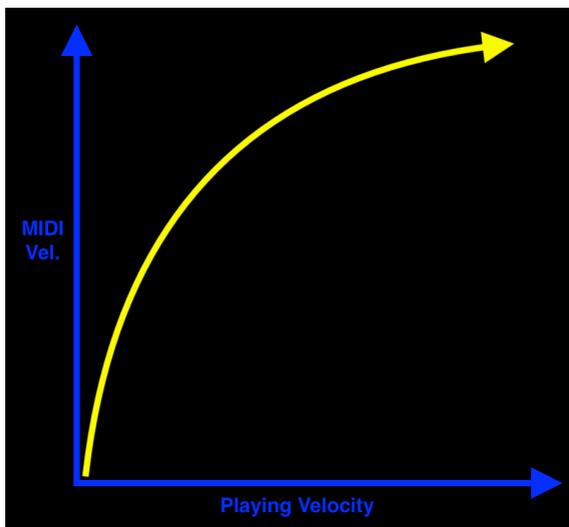
Linear ベロシティカーブ

Exponential はベロシティ値が低めに送信されるカーブで、中間域のベロシティ値を出すにはやや強めのタッチが必要です：



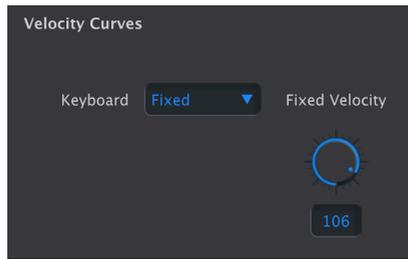
Exponential ベロシティカーブ

Logarithmic はベロシティ値が高めに送信されるカーブで、軽めのタッチで高いベロシティを弾きやすくなります：



Logarithmic ベロシティカーブ

最後の Fixed はタッチの強弱に関係なく、一定のベロシティ値を送信します：



4.3.2. Pad

パッドのベロシティカーブ設定は、すべてのパッド (A/B 両バンクとも) で共通です。設定オプションはキーボードと同じ4タイプがあります。

4.3.3. Pad Aftertouch - パッドのアフタータッチ

アフタータッチはパッドをタップした後、さらに強く押し込むことでモジュレーションを加えることができる機能です。最初にタップしたときの強さはベロシティ値 (強くタップするとベロシティ値が高くなります) として送信され、そこからさらに押し込むと別のメッセージが送信され、それをモジュレーションに使用できます。アフタータッチはキーボードでよく使われる機能で、ビブラートをかけたり、シンセサイザーのフィルター開閉をコントロールしたりするのに使われるのが一般的です。

最も一般的なアフタータッチは、チャンネルアフタータッチです。これは、1つのパッドを強く押し込むと、その他のパッドにも共通してアフタータッチがかかるタイプです。MiniLab 3 では複数のパッドを同時にタップしていてもパッドごとにアフタータッチを送信できる、ポリフォニックアフタータッチに対応しています。

パッドのアフタータッチのカーブ設定は、すべてのパッドに対して共通で設定され、設定オプションは Linear、Exponential、Logarithmic の3タイプがあります。ベロシティにある Fixed はアフタータッチにはありません。

パッドを押し込む強さでビブラートやフィルターカットオフ、あるいはその他のパラメーターを徐々に変化させることができるアフタータッチは、非常に表現力豊かな機能ですので、ぜひ3つのカーブを実際に試してみて、ベストなものを選んでみてください。

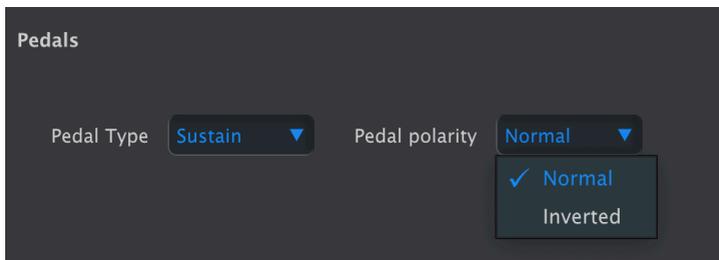
4.4. Pedals

MiniLab 3 には 6.3mm TRS のペダル端子が1つがあり、スイッチタイプのペダルやコンティニューアスのペダルを接続できます。この端子の動作モードは、**Pedal Type** パラメーターの4つの設定オプションから用途に合わせて選択できます。



Note: 接続したペダルからは MIDI メッセージがデフォルトキーボードチャンネル [p.23] で送信されます。

4.4.1. Sustain



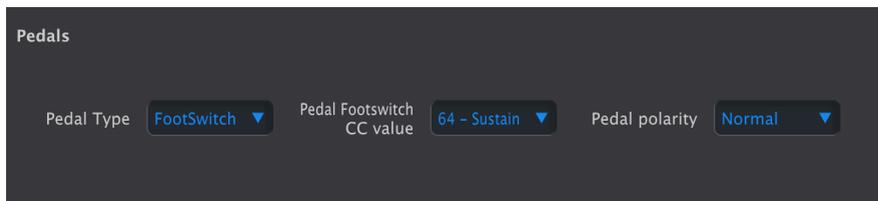
スイッチタイプのペダルをサステインペダルとして使用したいときに、Sustain を選択します。これは端子の機能を MIDI CC 64 (サステイン) に設定するショートカットです。

- **Pedal Polarity** : ペダルの極性を Normal か Inverted から選択できます。



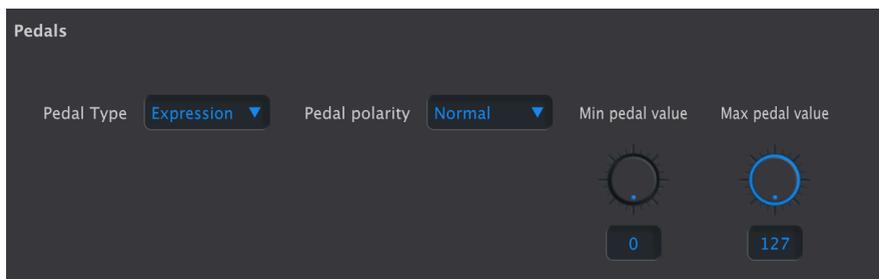
♪ サステインペダルは機種によって極性が異なることがあります。接続したペダルを踏んでいないのに音が長く伸びてしまうときは、このパラメーターの設定を変更してください。

4.4.2. Footswitch



Footswitch に設定すると、スイッチタイプのペダルやフットスイッチをサステインペダルを含む様々な用途に使用でき、その機能を **CC Value** パラメーターで MIDI CC を選択することで設定できます。

4.4.3. Expression

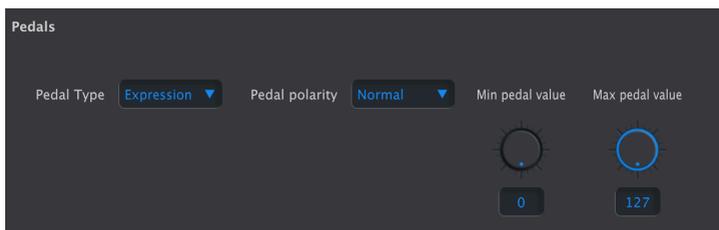


もう1つのショートカットが、この Expression で、エクスプレッションペダルなどの連続可変するタイプのペダルを MIDI CC 11 (エクスプレッション) のコントロールに使用したいときに選択します。

- **Pedal Polarity** : ペダルの極性を Normal か Inverted から選択できます。
- **Min Pedal Value** : ペダルを最低位置 (かかと側) にしたときの値を設定します。
- **Max Pedal Value** : ペダルを最高位置 (つま先側) にしたときの値を設定します。

 ペダルの極性を反転させることでペダルを踏み込むほど値が低くなったり、逆に動作してしまっているペダルの動作を正しい動作に直すことができます。

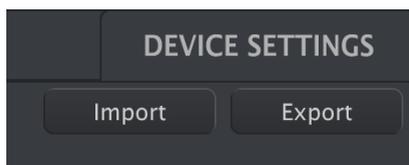
4.4.4. Control



連続可変するタイプのペダルを様々なコントロールに使用したいときに Control を選択します。コントロールの種類は **CC Value** パラメーターで MIDI CC を選択して設定します (ここで Expression を選択することもできます)。

 「ハーフダンパー」に対応したピアノインストゥルメントでその効果をサステインペダルで出したいときは、この Control モードを使用します。CC を 64 (サステイン) に設定し、Max Pedal Value をちょうどよいダンピングに調整します。Min Pedal Value を 0 以上に設定すると、常時サステインがかかります。

4.5. デバイス設定のインポートとエクスポート



Device Settings 画面の右上にある **Import**、**Export** ボタンでは、デバイス設定のみが入ったファイルの管理を行います。ボタンのどちらかをクリックすると OS レベルのファイルブラウザが開き、インポート (読み込み) をするファイルを選択したり、エクスポート (ファイル書き出し) をする場所を指定できます。

デバイス設定のファイルには **minilab3_ds** の拡張子が付きます。このファイルを他の MiniLab 3 ユーザーとシェアしたり、用途別に設定ファイルのライブラリーを構築することができます。

5. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアトリア製品代金の一部）により、アトリア社はライセンスターとしてお客様（被ライセンスター）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アトリア社（以下アトリア）に帰属します。アトリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アトリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アトリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アトリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アトリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アトリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アトリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。ソフトウェアライセンス本契約の条件に同意されなかったことによる製品の返品。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却(製品のアクティベーションなど)は、権利譲渡後ではできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。